

安全点検

出張の朝、ホテルから東京ドームシティを眺めていて、珍しい光景を目にしました。開業前に行われる遊園地の遊具の点検作業です。なかでも、ジェット・コースターの点検作業が目につきました。2人1組で線路に沿った階段を歩き、目視点検をされます。2人のヘルメットの色が違います。1人は遊具の運転担当者、もう1人はメンテナンス担当者なのだと思います。運転担当者が前を、



中嶋哲夫の「人事も歩けば」

メンテナンス担当者が後を歩いておられるように思えます。何段か登ると安全ロープを掛け替えるので、その動きは尺取り虫のようです。登り切ったところ（多分80m位の高さ）のスイッチを押さないとジェット・コースターは動かない。そういう仕組みになっているそうです（終業の時は地上のスイッチで停止させる事ができるそうです）。つまり、目視点検を行わないまま営業することはできない仕組みとなっているわけです。また、お客様を乗せる前に、スタッフが乗って試運転を行うとのことでした。

ジェット・コースターの乗り場にも、安全維持の仕組みが準備されていました。2つのスイッチです。お客様を乗せたジェット・コースターの発進は、前と後の2つのスイッチが押されないと動かないそうです。2人のスタッフが、お客様の安全ベルトを点検し、所持品をロッカーに収納させた後に、スイッチを押す。多分、アルバイトのスタッフだと



▲後樂園遊園地のジェット・コースターを点検する作業員

と思いますが、笑顔とともに安全を確保する作業を着実に進めておられます。

今回の滞在では、そのほかにも珍しい光景を目にしました。ひとつは、東京ドームの屋根の点検作業。ドームの上を多くの方が歩いて点検されていました。

もうひとつは、震災を想定した避難訓練。施設にお客様を迎える前に、安全を確保するための地道な作業が行われていることを目の当たりにしました。

安全点検は、目に見えない作業です。私たちが気づかない場所で、誰かがその作業を実施しておられます。手を抜こうと思えば手を抜ける作業かもしれません。実際に確認しないままチェックリストにチェックを入れることも可能です。しかし、そこで手を抜くことなく地道に点検をされている方々がおられることを、もっと意識しておきたいところです。

(MBO 実践支援センター代表)

